

令和2年度
文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

<児童劇公演>

公益社団法人教育演劇研究協会



「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演ではできるだけ子供たちにも参加してもらいます。



『いのちのまつり』は・・・

小学校の道徳の副読本としても使われています!!

2004年に第1作「いのちのまつり ヌチヌグスージ」が出版され、過去から未来へ続くいのちをテーマに描かれた「いのちのまつり」シリーズは累計35万部を突破し、道徳の副読本として採用され、小学校の授業でも使われています。また、英語、中国語などに翻訳され、海外数か国でも出版されています。

今回劇団たんぽぽでは、「つながってる!」「おかげさま」「かがやいてる」「みらいへ」を加えた全作品より構成し、舞台化しました。

劇団たんぽぽは・・・

1946年、戦争が終わり、大きな町が焼け野原になり、食べ物もなく、やせた子どもたちが日本中におおぜいいました。「子どもたちの元気な顔が見たい」と、長野県篠ノ井で小百合葉子を中心に子どものための劇を見せる児童劇団「劇団たんぽぽ」をつくりました。はじめのうちはリュックサックに衣裳や道具をつめて、子どもたちのところに行って劇を見せました。1953年、静岡県浜松市にひっこしました。1955年、公演活動を認められ、文部省（当時）という国の機関から公益法人格が許可され、社団法人教育演劇研究協会をつくりました。北海道から沖縄まで、主に小・中学校で劇をしています。その他にも先生のための「朗読勉強会」や「学校での表現活動」「演劇ワークショップ」「クリスマス公演」など、教育演劇研究協会としての活動もしています。2012年、公益認定が受理され公益社団法人になりました。

知ってますか?~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

いのちのまつり

原作／草場一壽「いのちのまつり」（サンマーク出版 絵／平安座資尚）

脚色／久野由美・松下哲子 監修／ふじたあさや 演出／大谷賢治郎 人形演出／つげくわえ

音楽／遠山裕 美術／池田ともゆき 衣装／坂本真彩 振付／酒井麻也子 エイサー振付・監修／島袋拓也

照明／坂本義美 音響／山北史郎

制作／上保節子

ひとりじゃない！
すべてのいのちがつながり、
かかわりあって生きている！

カー坊はもうすぐ11歳。
なぜかいつも、思いどおりにいかないことばかり。
どうしてだれも、ぼくの気持ちをわかってくれないの？
楽しみにしていた誕生日にも、ほしかったものがもらえなくて、カー坊は家をとび出した！

「あー、ムカつく！お父さんもお母さんもクラスのやつらも、みんながおれをイライラさせる。みんな、大っきらいだー!!」
そんなカー坊の前に突然あらわれたのは……。

親から子へ、そして孫へ、つながっていく“いのち”の物語。

ひとりじゃない！
めぐりめぐって生まれるいのち
めぐりめぐってつながる想い。

登場人物

- ・カー坊 (和輝 かずき)
- ・お父さん (幸輝 こうき)
- ・おじいさん (昌輝 まさき)
- ・お母さん
- ・先生
- ・タクヤ
- ・シンゴ
- ・川田のおばちゃん



絵：平安座基尚©サンマーク出版



「ヌチヌグスージ」とは、沖縄の方言で“いのちのお祝い、いのちのお祭り”という意味です。始まりも終わりもない悠久の時の流れのなか、広大無辺な生命のつながりが今ここに——。自分自身が奇跡の存在であること、与えられた生命を光り輝きながら共に生きぬくことが、「ヌチヌグスージ=いのちのまつり」であるという想いを絵本に込めました。

原作／草場一壽「いのちのまつり」より

